

東京2020オリンピック

DO 遊すぽぽつ

— 第65号 —

発行 草津学区体協

発行責任者

会長 伊藤 繁峰

草津体協バドミントンクラブの林 哲也さん（草津東）が、東京オリンピックのラインジャッジ（線審）として参加し大役を終えられ、今回ご報告いただきました。



橋本聖子オリンピック組織委員会会長来場（7月31日）
（林さんは後列左から2番目）

はじめに

高校時代からバドミントンを始めて約40年になります。高校卒業後は、草津体協バドミントンクラブに所属し現在に至ります。審判員を始めたのは、1994年に広島で開催されたアジア大会で公認審判員資格を取得し線審をしたのがきっかけです。

今回、オリンピックの線審として、各都道府県で1名の募集があり、広島県バドミントン協会の審判委員長から推薦いただきました。

金メダルを決めたジャッジ



大会期間中28試合を担当し、試合終了後に選手をミックスゾーン（インタビュウを受ける場所）への誘導も行いました。
日本人選手（奥原希望、山口茜、フクロヒロベア）の試合も担当し、幸運なことに男子ダブルス決勝戦も担当することになりました。
男子選手のスマッシュの初速は時速400キロを超えます。その試合で、あと1点で金メダルが決まるという場面でなんと私の担当ラインにシャトルが飛んできて、選手がシャトルを打たずに見送ったのです。私がインのゼスチャーをしたところ、中国選手がチャレンジ（映像による判定で野球ではリクエスト）を要求してきたのです。
しばらくして、大型スクリーンに、ラインの上にシャトルが落ちていた画像が映し出され、私のジャッジのとおりインとなり、その瞬間、台湾への金メダルが決まったのです。自分のジャッジに自信があったのですが、結果が出るまでの時間がドキドキでした。

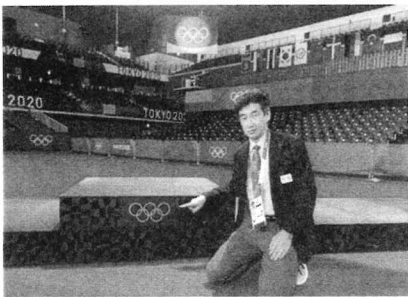
感謝

世界最高峰の大会に携わり、貴重な体験ができたのは、故柳坪進先生や出雲淑裕前体育協会会長ほか体協の仲間たちのお陰です。また、派遣されるにあたり、たくさんの方から激励をいただき感謝いたします。

この貴重な経験を今後の広島県バドミントン協会の発展のために伝えていき、後輩の指導、審判員の養成に力を入れ、さらにバドミントンがメジャーなスポーツになるように普及を続けていきたいと思っております。

現在の活動

現在は審判員資格1級を取得し、審判資格の検定員となり、B級レフェリーの資格も取得して、毎年全国大会に派遣されています。また、広島県バドミントン協会の審判委員会事務局長として、審判員資格の更新事務や検定会の開催、審判員の派遣依頼等を行っています。



草津の皆さんでバドミントンに興味がある方は、ぜひ練習に参加してみてください。

～草津体協バドミントンクラブ練習日～
毎週水曜19時から21時 草津小学校体育館
（感染状況により変更あり）